

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [尼崎市立武庫東中学校] 担当教諭名 [白井 麻矢] (社会科クラブ 20名)

相手国・地域 [リトアニア]

海外学校名 [Laurynas Ivinskis Gymnasium] 担当教諭名 [Verseckiene Valdone]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	クラブ活動	アートマイル学習	145

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	We act together for better future!
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	<p>The world is much bigger than we think, and even now, if we look around, we can see the nature that supports us. Forests store water, oceans nurture rich creatures, and always support us in ways we cannot see.</p> <p>What if the forests disappear? What if the ocean is polluted? How will we survive? As an organism that will continue to live on this earth, we should think about the importance of nature once again.</p> <p>We are the only ones who can change the future of the earth. Let's move forward to a future where we can coexist with nature!</p> <p>We know, we care, we share, we act together for better future!</p>



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の実現に向けて、世界で起こっている様々な問題を理解することができた。 私たち一人ひとりにできることを考え、周囲の人へも情報を発信するなど、行動の輪を広げようと働きかけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> もっとたくさんの情報をこまめにパートナーと共有するべきだった。 Muralに込めたいメッセージについてもっと時間をかけて深く議論し、意見のやり取りをするべきだった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 離れていても、違う文化を持つ国でも、同じ地球で暮らしている人間として、共通の思いを持ってより良い未来を目指していくことは可能であると感じるようになった。 他の国で起こっていることについても、自分事として意識するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本にいて耳に入ってくる世界についての情報は、あくまでも日本やアジアから見た情報であり、国や地域が変わればまったく違う情報が流れているということがわかった。 議論するとき、相手に自分の意思をくみ取ってもらおうとする受動的な姿勢ではなく、拙い英語であっても自らの言葉で伝えようとする意識が大切だと感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	・オンラインでの自己紹介、お互いの国や文化の紹介、あらかじめ伝えていた質問への返答など	・初めての経験に興味津々であるとともに、緊張気味であった。 ・相手の英語が理解できず不安そうであった。 ・終わったあとは達成感を多少感じている様子であった。	クラブ活動
共有 テーマ学習	7月～ 9月	・それぞれのテーマについて調べたことをフォーラムにて共有 ・お互いの国の文化などの紹介 ・日本で行った米作りや梅干し作りなどを紹介 ・東京オリンピックの歴史やお互いの国の地理的な比較など、調べたことを紹介 ・未来の地球のイメージについてお互いに共有した	・日本庭園について調べた際には、リトアニアにも庭を美しく手入れする文化があることを知り、形は違えど、自然とともに生きているという意識が共通していることに気づいた。 ・地震の多い日本に対して、ほとんど地震の起こらないリトアニアという地理的な違いに驚いている様子だった。	クラブ活動
融合 メッセージ作成	10月	・オンラインにてお互いの調べたことを報告 ・壁面に込めたいメッセージについて各々考えたことを伝えあい、共有 ・SDGsやアートマイルについて紹介するための動画を一緒に撮影し、文化発表会で発表	・壁画についてのメッセージを共有した。 ・二度目のオンライン会議ということもあり、以前よりパートナーの言葉を聞き取ることができ、喜びを感じていた。 ・国連でスピーチを行ったBTSのダンスと一緒に踊ったことで、離れていても音楽やダンスというものは国境を越えて楽しさを共有できるツールなのだと感じている様子だった。	クラブ活動
創造 壁画制作	11月 12月	・壁画制作	・共に考えたメッセージを具体的な形として実現させることの難しさを感じている様子であった。 ・みんなで一つの作品を作り上げていく楽しさを感じている様子だった。	クラブ活動
評価 振り返り 自己評価	1月～ 3月	・アンケートによる振り返り ・これまでの活動内容をまとめた掲示物を作り、校内に掲示 ・壁画を完成させたパートナーへのメッセージ動画をフォーラムへ投稿	・1年間かけて完成させることができた作品を見て、感動していた。 ・日本側の作品にうまく融合させながら素晴らしい作品を作ってくれたパートナーへの感謝を感じていた。	クラブ活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	世界の様々な国々の文化に目を向けるだけでなく、日本との相違点を探るために自国の文化にも目を向けるようになった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	グループでのディスカッションなど、相手の意見を聞いて理解することはできるが、批判的に思考し、相手に伝える中で議論を深めていく力にはまだ課題が残っているように感じた。
主体的に考え行動する力	5	「他の地域では環境を守るためにどのような取り組みを行っているのだろう」「ある企業ではSDGsについてこのような取り組みを行っているので本校でも参加してみたい」など、自ら調べ、考え、周囲へ発信しようとする意識が芽生えた。今までは教師の指示を待つ生徒が多かったが、自ら行動しようとする力がついた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	自分とは文化も言語も異なる人々の意見に耳を傾け、同じ目的に向かってともに進んでいこうとする前向きな姿勢が見られた。特に、Mural制作の際は、パートナーの調べてくれたピクトグラムからインスピレーションを受け、壁画のデザインに取り入れるなどの工夫をした。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	日本とリトアニアの生徒の想いを融合させたメッセージを作成し、そのメッセージを込めた壁画のデザインを考えることができた。また、よりよい作品にするために丁寧に作業を進めることができた。